

「宇都宮城つり天井事件」

熊川 誠

宇都宮城つり天井事件は、江戸時代の下野国（現栃木県）宇都宮城主で、江戸幕府の年寄本多正純が、吊り天井を仕掛けて二代将軍徳川秀忠の暗殺を謀った事件とされている。嫌疑をかけられ、本多家は改易、正純は流罪となった。但し、吊り天井は存在せず、正純の存在を疎ましく思っていた土井利勝、または加納御前の恨みによる陰謀の疑いがある。

事件は、将軍秀忠が、家康七回忌に日光東照宮を参拝後、宇都宮城に一泊する予定であったので、正純は、城の普請や御殿の造営を行わせていた。秀忠が日光にいるときに、秀忠の姉で、奥平忠信の祖母・加納御前から「宇都宮城の普請に疑惑がある」と訴えがあった。このため秀忠は予定を変更して宇都宮城を通過して、江戸城に帰還した。本事件に関して、正純謀反の証拠もなく、かつ宇都宮城の不審点も無いと伝えられている。

本多正純は本多正信の嫡男として生まれた。正信は、三河の一向一揆で主君である徳川家康に反逆し、三河の国を追放された。正信は、大和の国の松永久秀を頼っていたが、後に家康のもとへ復帰すると、正純も家康の家臣として仕えた。本多正信が歴史の舞台に出てくるのは豊臣秀吉の死後で、家康の参謀としての活躍があり、家康の信任を得る。正純も父と同じく智謀家であったことから同様に家康からの信任を得る。家康が天下をとって、征夷大將軍となり江戸幕府を開くと、正純はさらに家康から重用される。2年後に家康は將軍職を三男の秀忠に譲ると、大御所となって、江戸の秀忠には大久保忠隣、駿府の家康には本多正純が補佐をし、正純の父正信が両者の調停をする形が続いた。

正信・正純親子は、大久保長安事件で、大久保忠隣の失脚にかかわったと言われているが確証はない。

大久保忠隣の失脚で正純の権力が強まった。この大久保長安事件とは、武田遺臣で、家康より江戸幕府の代官頭とし権力を有した大久保長安死後に過分な私財が発覚し着服の疑いで処罰がされたもので、長安の家系は断絶した。一説では、家康は長安の振る舞いを知っていたが、長安が有能であるため捨ておいて、死後に罪をとい処罰とした。長安は、もと猿楽師であるが、今でいう鉾山技師でもあった。したがって、佐渡金山や石見銀山の開発に貢献した。この事件は、長安後見人の大久保忠隣の改易につながった。

南総里見家も、藩主里見忠義の舅である大久保忠隣の失脚に連座して領地没収となった。里見八犬伝のファンとして残念。家康の死後、正信もなくなり、正純は江戸に転任し秀忠の側近として老中にまでなるが、秀忠側の従来の側近である、土井利勝が台頭してきて政治力が弱まった。正純は、頭が切れすぎたため、将軍や幕閣から憎まれていたと思われる。正純の存在を疎ましく思っていた土井利勝の陰謀が有力と思われるが、加納御前の恨みによる

陰謀説もある。加納御前の娘は、正信・正純の陰謀で、改易された、大久保忠隣の子大久保忠常の正室であった。また、正純の宇都宮の栄転で、格下の下総古河の領主へ転封させられた奥平忠昌の祖母でもあった。

更に、將軍秀忠の姉であり恨みによる陰謀説も否定できない。昔、吊り天井での暗殺は、東映の時代劇や漫画の「伊賀の影丸」などで、描かれていたのを思い出します。しかし暗殺方法での吊り天井は、証拠が残りあり得ないもので、違う暗殺計画のほうが理にかなっていると思われまます。

しかし、宇都宮の吊り天井事件は、陰謀であることは間違いないのですが、將軍暗殺計画事件として当時の権力者によって処分されています。土井利勝は、秀忠の側近で三代將軍家光に交代後も幕府の権力者であり続けた。また、駿河大納言忠長と熊本藩主加藤忠広の改易事件も土井利勝の陰謀と思われています。これ等から推定すると宇都宮城の吊り天井事件については、陰謀好きの土井利勝の犯行説が正解と思われまます。了